

(案)

静岡県緑化推進計画 序章

計画策定の意義

高度経済成長以降、都市部の急激な開発により身近な花と緑が失われたことから、これまで本県では緑化率の向上に向けた政策を展開し、一定の成果を得てきた。

近年の、暮らしの空間にやすらぎやうるおいを求める人々のニーズの高まりに対応するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップの開催を控え、国内外からの来訪者の増大が期待される中、人々を緑でもてなす空間を創出するには、**従来の花と緑の量の確保に加え、高い技術・デザイン力により、それらの美しさが一層引き立つ良質なまちづくり**が求められる。

次期総合計画の基本理念の実現に向け、「和」や「美」を尊重し、本県ならではの花と緑が映える暮らしの空間を創出するため、今年度誕生した新生グリーンバンクと協力し、新たな緑化推進計画を策定して、社会総がかりで静岡県の緑化を推進する。

計画策定の経緯

1 静岡県緑化推進計画

- (1) 計画期間 平成2年度～平成12年度
- (2) 背景 緑と人間の調和を目指した長期総合計画の必要性
- (3) 取組方針 都市部の緑倍増、森林と農地の整備

2 静岡県緑化推進計画（第1回改定）

- (1) 計画期間 平成11年度～平成16年度
- (2) 背景 県の緑化施策を取りまとめ一体的な事業推進
- (3) 取組方針 山、里、街、水辺ごとの緑化の推進
県民の緑化活動への参加促進と支援施策

3 静岡県緑化推進計画（第2回改定）

- (1) 計画期間 平成17年度～平成22年度
- (2) 背景 県民の花と緑への関心の高まり、緑化ボランティア団体の活動が浸透
- (3) 取組方針 良質な緑化による美しい景観の形成
県民と行政の協働による緑と花づくり
緑の持つ多様な機能を発揮させる適正な管理

4 ふじのくにの魅力を高める花と緑のまちづくり計画（第3回改定）

- (1) 計画期間 平成23年度～平成32年度
- (2) 背景 魅力ある景観となる花と緑の質と量が不足、維持管理を担う人が不足
- (3) 取組方針 花と緑の空間の保全と創造
花と緑を慈しむ心を持った人づくり
県民が参加するための仕組づくり

現計画の指標

【基本方針】

花と緑にあふれた魅力あるまち

【基本指標】

身近にある公園や歩道等の公共的施設の花や緑の量を十分だと思ふ県民の割合

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	目標
53.0%	50.6%	51.9%	48.0%	55.5%	54.8%	53.6%	55.3%	70%

【施策の方向性】

緑化率の向上に重点を置いた施策を実施

⇒県民の2人に1人は花や緑の量を十分だと感じてはいるものの、これまで取り組んできた緑化施策を反映した意識の変化はあまり見られない。

これまでの成果と課題（要因分析）

1 公共的施設の緑化率と緑化面積

年度	平成元年度	平成10年度	平成16年度	平成21年度
緑化率(%)	12.5	16.9	17.8	18.5
緑化面積(ha)	1,903	2,594	2,755	2,935
敷地面積(ha)	15,216	15,356	15,508	15,830

※現計画の指標でないためH22以降は集計していない。

2 緑化資材配布数

年度	S57-H23	24	25	26	27	28	累計
緑花木(本)	1,525,548	11,539	9,071	9,047	8,952	8,123	1,572,280
球根(球)	16,178,698	1,060,090	904,710	812,360	777,227	768,780	20,501,865
種子(L)	9,267	373	314	233	254	227	10,668

【成果】緑化率の向上のために、多くの資材を全県に配布した。

【課題】緑化団体から要望のあった分量を配布するだけの事業となっていた。

【方向性】花壇などの緑化造成のイメージを持って資材を配布し、実績確認を行う。

3 県及び緑化関係団体が行う緑化活動のための技術研修会参加者

年度	24	25	26	27	28
人	4,543	5,485	4,332	5,123	7,565

主な研修会・講座

- ・花緑出張サービス（経済産業部農芸振興課）
- ・緑化ボランティア育成研修会（静岡県グリーンバンク）

【成果】毎年5千人規模の研修参加者がいる。

【課題】研修後、修了生が地域でどんな役割を持って活動しているか、把握しきれていない。

【方向性】今後は、研修後の活躍の場を想定した研修プログラムとし、育てた人材を活用していく。

4 「花と緑の魅力あるまちづくり連絡会議」の活動実績

年度	連絡会議	講習会
26	構成員から緑化の取組を発表	3回（152人）
27	構成員から緑化の取組を発表	3回（143人）
28	構成員から緑化の取組を発表	2回（84人）

【成果】連絡会議が実施する技術講習会への参加者が多かった。

【課題】計画の進行管理機能を十分果たしていない。

【方向性】会議の構成員が計画の目指す姿について共通認識を持ち、事業の進行管理を図れるよう、専門家の意見を取り入れるしくみを作る。

外的な要因

1 交流人口の増大

- ・日本を訪れる外国人来訪者は、年々増加している。
- ・静岡県への観光交流客数も、年々増加している。
- ・ラグビーワールドカップ2019をエコパスタジアムで、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技をベロドロームで開催。

⇒国際的なイベントの開催により、今後も交流人口の増加が見込まれる。

訪日外客数（人）

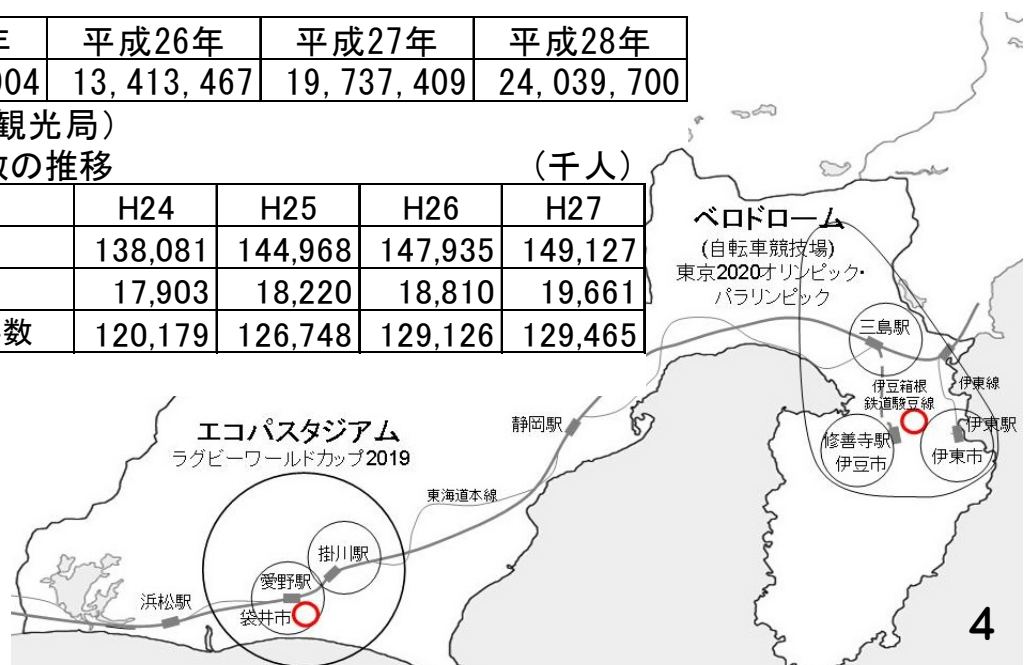
平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
8,358,105	10,363,904	13,413,467	19,737,409	24,039,700

訪日外客数（日本政府観光局）

静岡県内の観光交流客数の推移

年度		H24	H25	H26	H27
内訳	観光交流客数	138,081	144,968	147,935	149,127
	宿泊客数	17,903	18,220	18,810	19,661
	観光レクリエーション客数	120,179	126,748	129,126	129,465

静岡県観光交流の動向

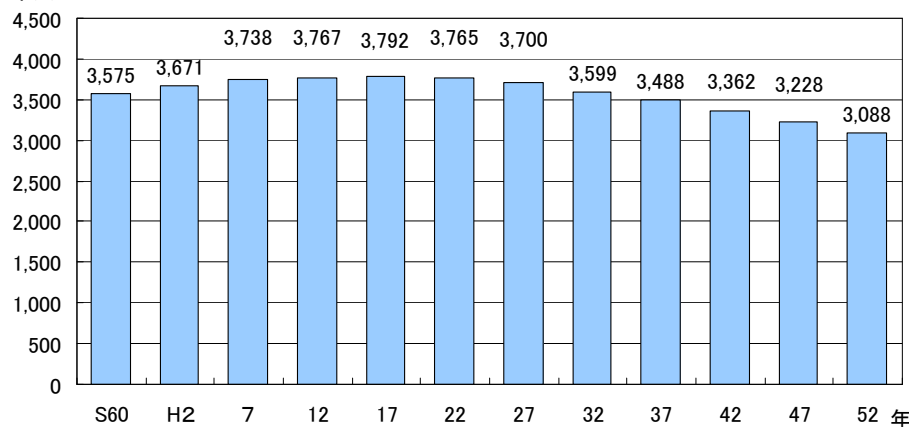


2 人口減少と高齢者の有業率

- ・ 静岡県の人口は、平成19年12月の3,797,333人をピークに減少している。
- ・ 全国の高齢者の就業率は年々上昇している。
- ・ 静岡県の60代女性の有業率は全国上位にある。

⇒自発的な緑化ボランティアだけに頼っていくことは難しい。

千人 静岡県の人口推移



(~H27) 国勢調査
(H32~) 静岡県将来人口推計

高齢者の就業率(全国)

		年度			
		H24	H25	H26	H27
男	60-64歳	71.3	72.2	74.3	75.5
	65-69歳	46.9	48.8	50.5	52.2
	70歳-	19.7	19.7	19.9	20.1
女	60-64歳	44.5	46.0	47.6	49.4
	65-69歳	27.8	29.3	30.5	31.6
	70歳-	8.6	8.5	8.9	9.3

(労働力調査)

60代女性の有業率

年齢	60-64	65-69
全国(%)	47.3	29.8
静岡県(%)	54.6	37.8
順位	2	3

平成24年就業構造基本調査

3 市町の「緑の基本計画」策定状況

- ・ 緑化に関する取組の状況は、市町により差異がある。

緑の基本計画を有する市町数 19
都市計画区域を有する市町数 32

⇒地域の個性を生かし、魅力的なくらし空間を創出するために、市町の緑化に関する取組を促進する必要がある。

市町名	計画名	策定年
静岡市	静岡市みどりの基本計画	H27
浜松市	浜松市緑の基本計画	H21
沼津市	沼津市緑の基本計画	H15
熱海市	熱海市緑の基本計画	H15
三島市	三島市緑の基本計画	H15
富士宮市	富士宮市緑の基本計画	H26
島田市	島田市緑の基本計画	H12
富士市	富士市緑の基本計画	H27
磐田市	磐田市緑の基本計画	H19
焼津市	焼津市緑の基本計画	H10

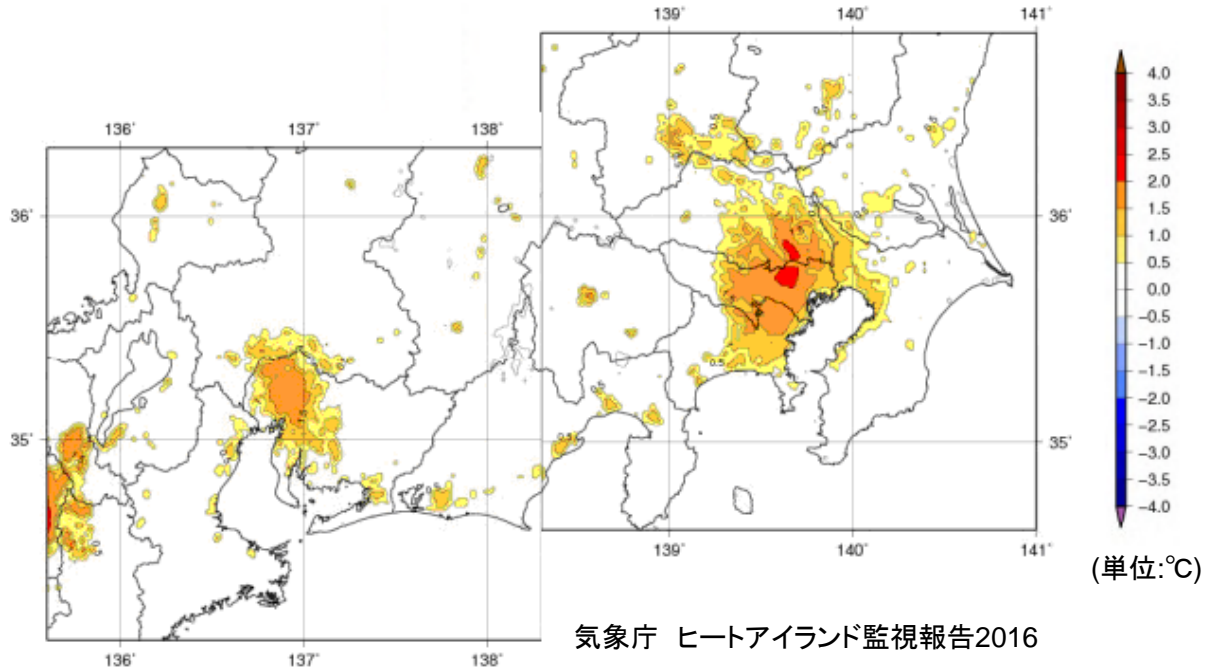
市町名	計画名	策定年
掛川市	掛川市緑の基本計画	H27
藤枝市	藤枝市緑の基本計画	H27
御殿場市	御殿場市緑の基本計画	H16
袋井市	袋井市緑の基本計画	H21
裾野市	裾野市緑の基本計画	H16
菊川市	小笠町緑の基本計画	H12
伊豆の国市	伊豆の国市緑の基本計画	H29
牧之原市	相良町緑の基本計画	H12
吉田町	吉田町緑の基本計画	H14

緑の基本計画とは、市町村が都市計画区域内において緑地の保全及び緑化の推進を総合的・計画的に実施するために、その将来像、目標、施策などを定めるもの。緑化については、住民に最も近い市町が地域の実情に応じた施策を講じることが基本であることから、策定主体は市町となっている。

4 ヒートアイランド現象

- ・都市化の進展により、本県でもヒートアイランド現象が見られる。
- ・緑の減少や地表面のコンクリート・アスファルト化等がヒートアイランド現象の一因。

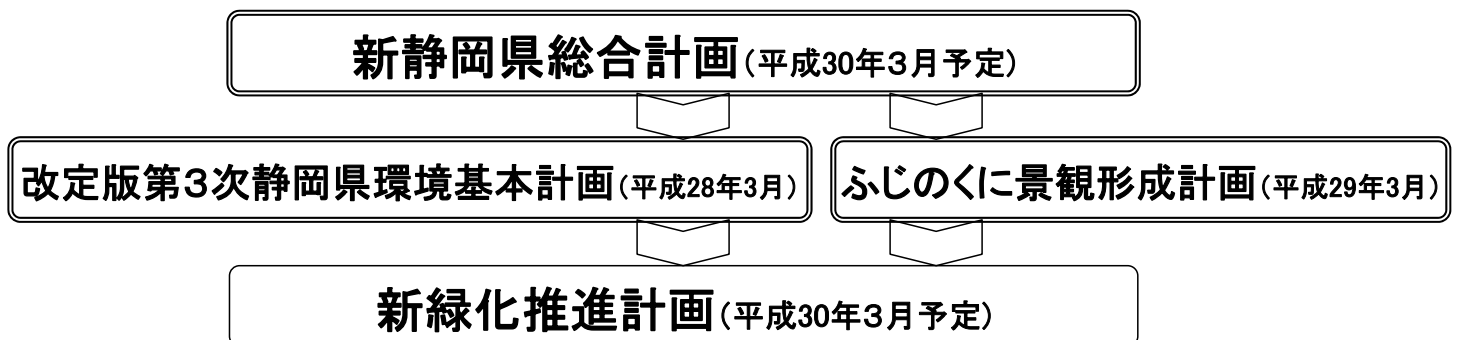
⇒公園緑地などの公共的な緑を確保するだけでなく、建築物のある敷地、建築物の屋上・壁面などでも積極的に緑化を推進する必要がある。



(左図) 東海地方における8年間(2009-2016年)平均した8月の都市化の影響による平均気温の変化の分布
(右図) 関東地方における8年間(2009-2016年)平均した8月の都市化の影響による平均気温の変化の分布

計画の位置付け

「静岡県総合計画」を基本とし、環境の政策をまとめた「静岡県環境基本計画」、景観形成の政策をまとめた「ふじのくに景観形成計画」と方向性を一にして、その重要な要素となる緑化に関する分野の方針及び方策を定めた「個別計画」である。



計画期間

平成30年度から平成39年度までの10年間とする。